

えいよう通信



糖尿病と皮膚疾患

日本における糖尿病患者さんは1000万人を超えたとされ、その数は増加傾向にあります。糖尿病に罹患すると網膜症、腎症、神経障害などの合併症の他様々な合併症、併存症が全身に生じてきます。今回はその中でも皮膚でよくみられる疾患について解説していきます。

糖尿病により血糖値の高い状態が続くと抵抗力が低下し、感染症にかかりやすく、重症化しやすくなります。また、糖尿病による血流障害には動脈硬化などが知られていますが、抹消の小さい血管にも影響を与えます。抹消の血流障害により必要な部位に十分量の酸素が供給されず、傷の直りが遅延します。さらに糖尿病による神経障害があると痛みを感じにくいため、傷が出来たことに気が付きにくく発見が遅れることがあります。

この様に糖尿病で生じる皮膚疾患は複合的な前進の合併症が背景となっている場合が多いのです。そのため、日常的に足のお手入れ（フットケア）への意識を高めましょう。早期発見がとても大切です。

糖尿病で多く見られる皮膚疾患には、水虫、うおのめ、たこなどがあります。

これらの皮膚疾患は一般的ですが、糖尿病患者さんの場合は高頻度に起こりそして重症化しやすいです。また、抹消の血流障害を基盤に皮膚の傷が慢性化することを『糖尿病性潰瘍』と呼びます。潰瘍とは、『皮膚が欠損して閉じない』状態です。潰瘍を治すためには皮膚に酸素を十分に供給する必要がありますが、血流障害があるために低酸素状態に陥っており、潰瘍の治癒が遅延してしまいます。

血流障害と神経障害が増悪して、皮膚組織の障害が非可逆的になると『糖尿病性壊疽』となり、外科的治療（切断など）が必要になります。

その様な事にならないように、特に足病変について右図を参考にして頂き、日々のチェックを行いましょう。お風呂上りには清潔な足にたっぷり保湿を。最後に念入りにマッサージを行い、血行を促進。そして日常的に

足首を回す かかと上げ 足指ジャンケン など
血行促進体操を行って参りましょう！

参考文献 糖尿病協会誌 さかえより

